

ゼロ から始める VTE 診療 HOW TO

DVT診断における 下肢静脈エコー

松尾 汎

医療法人松尾クリニック理事長

はじめに

エコーを臨床に活かすには、まずエコーの原理を承知し、使用する超音波機器の取り扱い方法を識り、最近のデジタル化された機器を活かしきることである。次いで、対象となる部位の解剖や生理、および血管疾患の病態を識り、さらにエコーの適応と限界も識っておくことが、診断への必須条件である。最後に、知識

を実際に活かすための実践の技術習得も、エコー検査では必要となる。労力と時間が必要だが、系統的に行えば習得できる(表1)。

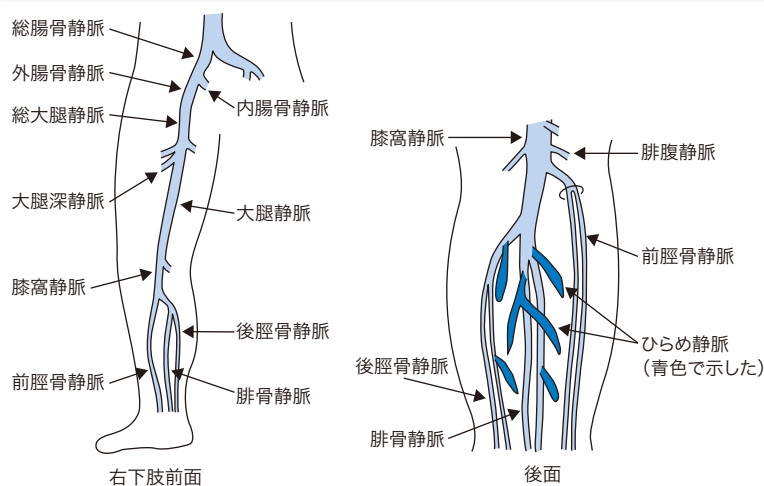
まず解剖と生理

静脈系は、筋膜よりも浅い皮下の部位を走行する“表在静脈”と、深い部分を基幹静脈として走行する“深部

表1 超音波検査を血管臨床に活かすための要件

- ①超音波の原理を識る
- ②超音波機器を識る
- ③血管の解剖と生理を識る
- ④血管疾患を識る
- ⑤検査手技を習得する

図1 主な深部静脈シェーマ



(文献1)より改変・引用